

全国統計でみる本校の子どもたちの姿

校長 森 和 久



本年度も、6年生が全国学力・学習状況調査に参加し、その結果が来ました。全国規模での統計調査であり、本校の子どもたちの姿を客観的に見る一つの参考となりますので、概要を報告させていただきます。

本年度は、従来あった「A知識」、「B活用」の区分がなくなり、国語、算数の2教科での実施でした。本校は、例年同様、全国の平均正答率よりも国語、算数とも10ポイント以上高い成績でした。個々の問題別に見ても、全国を下回っているものは一問もなく、とりわけ以下の内容が、著しくよい結果でした。

国語：「学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う」、「目的や意図に応じ、自分の考えや理由を明確にし、まとめて書く」、「文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く」

算数：「示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる」、「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる」、「場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる」

昨年度も同様の傾向だったのですが、よい結果が出ているのは、「書く」、「記述できる」など、一般的には難しいとされている「考えて書く問題」であり、本校が「自分の頭で考え、自分の言葉で表現する」ことを重視している成果ではないかと考えられます。

また、全国学力学習状況調査は、児童の生活習慣等の質問紙調査も行っています。本校の子どもたちは生活習慣、倫理観、将来に対する希望、自己肯定感といったほぼ全ての面で、肯定的に評価できる回答をしています。とりわけ「家の人と学校のできごとを話す」、

「きまりを守る」、「普段の読書時間」、「普段の学習時間」などの項目でよい結果が見られました。

また、「先生は理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」、「学級では互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」、「学級で協力して取り組み、うれしかったことがある」、「学校に行くのが楽しい」など、学校、学級に対しても肯定的な回答が多かったです。



一方、例年の傾向なのですが、「国語の勉強が大切だと思う」、「算数の勉強が大切だと思う」、「地域の行事に参加している」について、他の項目と比べると肯定的な回答が若干少ない傾向が見られました。学習習慣があり、学習の成果が出ているにもかかわらず、学習の意義が感じられていない児童が多少なりともいるということは、今後の課題です。「何のために学ぶのか」ということが、児童の本音に結びつくような学校・家庭での学びの在り方を、考えていく必要があると考えます。

「地域行事への参加」については、本校は児童の居住地にある学校ではないので、どうしても弱くなります。その分、「椛ニゴグッズの販売活動」や「服のチカラプロジェクト」などを通して、世界と交流し、社会に貢献する意識をもつことができるようにしているところです。

10月の月目標は、「協力のしかたを考えよう」です。今回の調査でも本校の児童は、協力の意義を理解し、協力の意欲もあり、実際によく行動できていることが見て取れます。そうした子どもたちをさらに伸ばしていくためにも、まずしっかりと「自分の考えをもつ」こと、そのうえで人の考えと自分の考えを冷静に検討し、どんなことで協力し合うとよいのか考える習慣をつけるよう促していきたいと考えます。